

歯ブラシとガーゼにおける歯垢除去効果の部位別比較

成城こばやし動物病院 澤田 眞弓

〇〇はじめに



近年、犬や猫のオーラルケアの重要性が目ざされ、飼い主の関心も高まってきている。今回、SigOne 犬用 360° 歯ブラシ(VIVATEC 社)を用いてブラッシングを行った場合と、市販のガーゼを手に巻きつけて歯を擦った場合の歯垢の除去性について切歯部、犬歯、上顎第4前臼歯、下顎第4前臼歯の部位別に比較した。

VIVATEC社製人用360°歯ブラシは、360°全周に植毛されており、小児および心身障害児で、通常の歯ブラシより歯垢除去効果が高いという報告がある。その結果から、細かなブラッシングが難しい動物についても同様の効果が期待される。また、動物病院専用のSigOneVETも展開され、動物の大きさによってより選びやすくなった。

〇 方法

動物はすべて犬、歯ブラシまたはガーゼを使って院内スタッフがケアを行い、その前後で、歯垢染色液またはブラックライトにより、上顎切歯部、上顎犬歯、上顎第4前臼歯、下顎第4前臼歯における歯垢の除去性について3段階

評価して比較した。

評価の3段階はそれぞれ、2. 1/2 以上の染色あり、1. 部分的な染色あり、0. 染色なしとした。

〇 結果

歯ブラシによるケア



ガーゼによるケア



〇〇 考察

今回観察した犬で、もともとケアを行っている症例では、切歯部、犬歯の歯垢の付着が少なく、ケア前後での比較が難しい症例が多かった。ガーゼと歯ブラシにおける、歯垢除去性の比較では、歯石の付着の少ない歯では、歯垢染色の残存部に大きな違いは見られなかったが、歯石が多く付着している歯では、歯間の歯垢の残存がガーゼの方が多くみられた。これは、ガーゼでは歯石によって形成された凹凸に適応しにくいからであると考えられる。

両方法において、最も磨き残しの多かった下顎の第4前臼歯は、上顎第4前臼歯によって阻まれるため、ガーゼでも歯ブラシでも開口させなければ清掃が難しかった。ガーゼを巻いた指は20mm以上あり、直径10.7mmのSigOne VET(SSサイズ)よりも、大きく開口させる必要があるため、よりケアがしにくいと考えられた。

以上より、歯ブラシとガーゼでの歯垢の除去性においては、特に歯石付着の多い歯では、歯ブラシによる清掃がより効果的であった。また、歯周ポケット内の歯垢の除去性は、歯ブラシの方が勝るといっては周知のとおりである。

最後に、どちらの方法を用いたとしても、切歯部や犬歯より臼歯に歯垢の残存が多かったことから、歯磨き指導の際、歯の形状や部位に留意してのきめ細やかな指導が併せて必要であると考えられる。

[表1]

評価	歯ブラシ前			歯ブラシ後		
	2	1	0	2	1	0
切歯(n=6)(%)	16.6	33.3	50	0	0	100
犬歯(n=14)(%)	7.1	35.7	57.1	0	0	100
上顎第4臼歯(n=14)(%)	50	42.8	7.1	0	42.8	57.1
下顎第1臼歯(n=14)(%)	35.7	28.5	35.7	0	57.1	42.8

[表2]

評価	ガーゼケア前			ガーゼケア後		
	2	1	0	2	1	0
切歯(n=3)(%)	33.3	33.3	33.3	0	33.3	66.6
犬歯(n=6)(%)	33.3	0	66.6	0	16.6	83.3
上顎第4臼歯(n=6)(%)	50	50	0	0	33.3	66.6
下顎第1臼歯(n=6)(%)	66.6	16.6	16.6	0	50	50

※小数点第1位以下切り捨て

評価：2. 1/2 以上の染色あり、1. 部分的な染色あり、0. 染色なし